

言語情報学とは何か

新たな若手研究者の育成に向けて

10月4日(火) 13:10→18:30

場所 語学研究所(419)

- 【招待講演】 笹岡 史子 (大東学院大学助教授)
少教員採用の研究と教育 - 一進岸ツィムシアン語の事例から -
- I. 言語学:言語情報学への寄与
磯水 雅貴 高田三枝子 石井 康毅
- II. 応用言語学:言語情報学への寄与
矢野 典枝 岡 寛佳
- III. 情報工学:言語情報学への寄与
阿部 一哉 成定 久美子
- 【自由討議】 今、若手研究者に求められるものは何か?
司会 高畑 敬博 (本学外国語学部教授)

言語学・応用言語学・情報工学の言語情報学への寄与

10月5日(水) 12:50→18:00

会場 101マルチメディアホール (12:50-14:40)

- 【招待講演】 宮岡 伯人 (大東学院大学教授・元京都大学教授)
言語のカタチ性について
赤堀 規司 (東京工業大学大学院教授)
教育工学と言語学習支援システム

会場 115教室 (15:00-18:00)

- I. 言語学:言語情報学への寄与
在閣 進 (本学外国語学部教授)
言語運用、検証、そして応用
- II. 応用言語学:言語情報学への寄与
宇佐美 まゆみ (本学大学院教授)
翻訳研究におけるローカル分析とグローバル分析の意義
- III. 情報工学:言語情報学への寄与
林 俊成 (本学外国語学部助教授)
TUFSS言語モジュールの設計およびe-Learningシステム上の利用
- IV. パネル討議:言語情報学とは何か?

◎主催

東京外国語大学21世紀COEプログラム
言語運用を基盤とする言語情報学拠点

【お問い合わせ先】
東京外国語大学 21世紀COEプログラム 言語運用を基盤とする言語情報学拠点事務局
〒103-8534 東京都中央区新富町3-11-1 Tel. 042-330-5541 E-mail: coolang@tufs.ac.jp



近年、言語研究においてコンピュータを利用したコーパス分析や統計解析などが盛んに行われるようになり、従来にない新たな知見が見いだされるようになりました。一方、自然な談話を語用論の観点から分析し、それをウェブ教材に取り入れる等の試みも始まっています。さらに学習者の言語コーパスを分析し、その成果を外国語学習に応用する努力も続けられています。このように言語学と言語教育学とコンピュータ科学の距離は、ますます近づきつつあると言えます。言語運用を基盤とする言語情報学拠点では、コンピュータ科学の基盤の上に言語学と言語教育学を統合した学問分野として言語情報学(Linguistic Informatics)を定義しています。

プログラム

言語情報学とは何か

- 新たな若手研究者の育成に向けて -

10月4日(火) 13:10～18:10 場所 語学研究所 (419)

司会 川口裕司, 高垣敏博

		時間
川口 裕司 (COE 拠点リーダー)	趣旨説明	13:00-13:10
招待報告		
笹間 史子 (大阪学院大学助教授)	少数民族語の研究と教育 ---海岸ツィムシアン語の事例から---	13:10-13:40
I. 言語学：言語情報学への寄与		
報告者	タイトル	時間
鏡水 兼貴 (国立国語研究所日本語 教育部門第一領域研究 補佐員)	東北・北海道における方言文法の共通語 化過程 (伝統的方言が共通語化によって変化していく過 程について、変化のパターンを統計的手法を用 いて分析する。資料としては、2001～2年に実 施した北海道・東北地方を調査したグロットグラム 調査に、1980年代の調査である方言文法全国 地図をあわせ、地点や項目の一致するものを選 択した。20年間隔で5世代、生年にして約90年 間の言語変化を観察することで、伝統的方言か ら新しい方言形を経て共通語形を使用するよう なるプロセスを解析し、共通語化のモデル構築を 目指す。)	13:40-14:10
高田 三枝子 (大学院博士後期課程)	語頭の有声破裂音における VOT の地域差 と世代差 (日本語の有声破裂音の語頭での VOT の値の 現れ方には、筆者のこれまでの研究から地域差 と世代差が強く関わっていることが明らかになっ ている。また語頭音声での現象は語中での有声 破裂音の鼻子音化や無声破裂音の有声化と関 わることが推測されている。本発表ではこれまで に分析した東北～関東に引き続き、語中の音声 現象有声破裂音の鼻子音化や無声破裂音の有 声化が見られる他の地域について分析した結果 を報告する。)	14:10-14:40

<p>石井 康毅 (大学院博士後期課程)</p>	<p>英語の句動詞・イディオムを支える不変化詞</p> <p>(英語では動詞と不変化詞(前置詞とそれと同形の副詞)から成る、いわゆる句動詞・イディオムが非常に高頻度に用いられ、英語の大きな特徴のひとつとなっている。不変化詞が持つ基本的な意義とメタファー拡張がこのような表現の構成上重要な役割を果たしているということを、コーパスからの多くの用例の分析と母語話者の心理イメージなどから明らかにする。このような学習者には一見難解な句動詞表現の背後にある観点の提示は第二言語学習者にも有効である。)</p>	<p>14:40-15:10</p>
<p>・ 応用言語学：言語情報学への寄与</p>		
<p>報告者</p>	<p>タイトル</p>	<p>時間</p>
<p>矢頭 典枝 (大学院博士後期課程)</p>	<p>「公的機関」における言語選択に関するアンケート調査：カナダの場合</p> <p>(これまで、カナダの連邦政府機関における言語調査は政府内で多く行われてきたが、バイリンガルな連邦公務員の言語選択に関する調査は1994年に行われた調査しかない。しかし、この調査は調査対象者が少なく、職場における詳細な言語選択を知ることはできなかった。本研究では、約250名の連邦公務員を対象に、職場における様々な場面における詳細な言語選択をコンピュータを利用して分析し、それまでの政府調査でわからなかった詳細な言語選択を知ることができた。)</p>	<p>15:20-15:50</p>
<p>周 育佳 (大学院博士後期課程)</p>	<p>パソコンによるスピーキング・テストと対面式スピーキング・テストの違いについて</p> <p>(スピーキング能力を測るために、直接テストと呼ばれている対面式スピーキング・テストが世界的に広く利用されている。一方、近年、パソコンの普及により、半直接テストと呼ばれるパソコンによるスピーキング・テストも増えている。学習者の両テストへの反応がどう違うか、両テストにより学習者の発話にどのような違いが出るのか、両者によって測られる能力がどう違うか、について先行研究を利用しつつ報告する。)</p>	<p>15:50-16:20</p>

III. 情報工学：言語情報学への寄与		
報告者	タイトル	時間
阿部 一哉 (大学院博士後期課程)	TUFS 文法モジュールの設計およびその評価 (発表では、文法モジュールの設計思想を詳説し、作成者、使用者へのアンケート調査の結果を報告し、文法モジュールが多言語 Web 教材として一定の成果を挙げていることを述べる。)	16:30-17:00
成定 久美子 (大学院博士前期課程)	語学教育素材作成を支援する多言語処理ツール (語学教育素材作成を支援する多言語処理ツール (KOTOEMON)は、日本語教育のための素材作成支援ツール(CLTOOL)を、多言語処理に対応できるよう改良したものである。利用者が文系出身者であること勘案し各種機能を追加したほか、海外における利用を考慮してメニュー表示等のテキストを多言語化した。発表では、これらのローカライゼーションについて言及するとともに、KOTOEMON の各機能の紹介を行う。)	17:00-17:30
自由討論 今、若手言語研究者に求められるものは何か？		
司会 高垣 敏博 (本学外国語学部教授)		
自由討論		17:40-18:10

言語情報学とは何か

- 言語学・応用言語学・情報工学の言語情報学への寄与 -

10月5日(水) 12:50 ~ 18:00

会場 マルチメディアホール (101 教室)		
		時間
池端 雪浦 (東京外国語大学長)	学長挨拶	12:50-13:00
招待講演		時間
宮岡 伯人 (大阪学院大学教授・ 元京都大学教授)	言語のカタチ性について	13:00-13:50
赤堀 侃司 (東京工業大学大学院教授)	教育工学と言語学習支援システム	13:50-14:40
会場 115 教室		
I. 言語学：言語情報学への寄与		
在間 進 (本学外国語学部教授)	言語運用、検証、そして応用	15:00-15:20
質疑応答		15:20-15:30
. 応用言語学：言語情報学への寄与		
宇佐美 まゆみ (本学大学院教授)	談話研究におけるローカル分析と グローバル分析の意義	15:30-15:50
質疑応答		15:50-16:00
III. 情報工学：言語情報学への寄与		
林 俊成 (本学外国語学部助教授)	TUFS 言語モジュールの設計および e-Learning システム上の利用	16:00-16:20
質疑応答		16:20-16:30
. パネル討論 言語情報学とは何か		
司会 川口 裕司 (本学外国語学部教授)		
パネル討論		16:40-17:30
自由討論		17:30-17:50
懇親会 18:20 ~		